様式第５号

平成 30 年 7 月 23 日

野々市市議会議長　様

（報告者）
会派名 ［又は 議員名］ フォーラム・エヌ
代表者 馬場 弘勝

政務活動報告書

下記のとおり政務活動（調査研究、研修、要望・陳情）を実施したので、報告します。

期　　間	平成 30 年 7 月 17 日から　平成 30 年 7 月 20 日まで
視察、研修、要望・陳情の場所	ゼビオアリーナ仙台周辺施設（宮城県仙台市太白区あすと長町 1-4-10） 八戸市役所（青森県八戸市丸 1-1-1） 函館アリーナ（北海道函館市湯川町 1-32-2）
参加者氏名	馬場弘勝
目　　的 （調査・視察事項）	（ゼビオアリーナ仙台周辺施設）周辺施設の一体整備内容と運営 （八戸市役所）八戸市多目的アリーナの建設計画の経緯と官民連携 （函館アリーナ）函館アリーナの多目的利用内容と運営、企画
調査・視察概要	ゼビオアリーナ仙台の周辺施設である「ぐりりスポーツパーク」は、テント張りドーム型のアルミ構造架構によってスポーツ空間を確保し、飲食店舗やスポーツ関連の物販店舗も敷地内に配置され、隣接するゼビオアリーナと相まって、総合的な運動ゾーンとして一体整備されている。競技場や体育館という単体施設が独立してバラバラに建設されるのではなく、本市においても公園と一体化した総合的な運動ゾーンの形成を目指すべきであり、スポーツに関する物販、健康に寄与する飲食等の併設が集約に結びつくという観点の必要性について学んだ。また、周辺施設として低コストで収益を考えたコスト意識と運営については本市においても参考にすべきである。 八戸駅前に計画中の区画整理事業は、平成 9 年度から平成 40 年度を計画期間とし、「集」「活」「憩」「学」「住」という 5 つのゾーニングにより現在整備が進められている。アイスホッケーの競技人口が全国一位である八戸市は市全体の人口減少が進む中で、人口という指標そのものよりも、人を集める・交流するということを中心コンセプトとし、その中でも特に駅前の中心軸となるシンボルロードの正面に計画され

	た「集」ゾーンに位置するアリーナは、官民連携によって計画が進められている。土地は市が取得し民間企業へ無償提供し、建物は民間企業が建設と管理運営をする予定で、市は学校体育や市民利用等の利用枠の提供を受け、年間使用料を民間企業に負担する。それ以外の利用枠については、プロアイスホッケーのホームゲームだけではなく、移動式の断熱フロアを設置することでバスケットボール等のアリーナスポーツにも対応し、企業努力による多様なイベントを誘致し、事業を成立させるという事業スキーム構成となっている。スポーツのまち八戸、という明確な考えを前面に出し、スポーツ施設を中心市街地活性化の核と位置付けて事業を進めており、施設整備というハード面だけではなく、選手の育成や道具の支援、指導者への支援、選手のセカンドキャリアを支援していくというソフト面にも施策の重点を置きながらまちづくりを展開している点は、本市にも取り入れていきたい重要な考え方であり、非常に参考になった。 函館市に整備された函館アリーナは、指定管理者制度によって運営される多目的アリーナである。メインアリーナとサブアリーナ、武道館があり、生涯スポーツ施設としての役割、スポーツ競技会施設としての役割、大規模な国際大会や展示会イベントが可能なコンベンション施設としての役割、そして、避難施設としての役割がある。これからのスポーツ施設は、従来型の行うスポーツ施設という観点だけではなく、「行う、見る、交流」という観点が重要であり、運営面での持続可能性、さらには緊急避難の拠点という機能や仕様を満たすことが求められ、具体的な仕様を調査した。また、ユニバーサルデザインの視点で整備することの重要性についても理解が深まった。整備される体育施設は、近隣市町との相互利用、経済効果、スポーツツーリズム（観光）といった視点も非常に大切であり、体育からスポーツへの転換が重要であるということを学んだ。
備　　考	